

(一般質問)

質問日	令和7年3月10日（月）			質問方式	分割方式		
質問順位	5	会派名	自由民主党浜松	議席番号	18	氏名	久米 丈二
表 題		質 問 内 容				答弁者の職名	
1 本市の農業発展の途切れのない取り組みについて		本市の農業施策について、以前より様々質問してきたが、平成31年に策定された浜松市農業振興ビジョンは、「チャレンジ・工夫で『もうかる農業』を実現する」を基本理念として、本市農業の目指すべき方向性を明確にするものであった。 それから5年が経過し、その間にも本市は様々な農業振興の取り組みをしてきたが、本年4月には新たな農業振興ビジョンが示される。 そこで、以下について伺う。 (1) 浜松市農業振興ビジョンのこれまでの成果について伺う。 (2) 新たな浜松市農業振興ビジョンの内容と、今後の展開について伺う。				中野市長	
2 本市の持続的な農業発展について		本市の持続的な農業発展のために、担い手の確保や耕作放棄地は解消していかなければならない問題と考える。しかし、農業者が減少している現状で、農業産出額を上げていくためには、農業後継者育成や農地の効果的な利用が必要であると考えます。 そこで、以下について伺う。 (1) 本市の担い手における親元就農について伺う。 (2) 地域計画について伺う。 ア 法定化された地域計画の策定状況を伺う。 イ 地域計画策定後の農地の有効利用について伺う。				清水農林水産 担当部長	
3 特定外来生物対策について		特定外来生物ヌートリアが市内全域で目撃されている。三ヶ日地区でも目撃され、尾奈地区では農業被害も出ている。ご存じの通り、ヌートリアは繁殖力が非常に強く、放置すると大きな農業被害が出る恐れがある。 本市においては、特定外来生物のうち、クリハラリス、アライグマ、ヌートリアに対し、防除対策を行っているが、クリハラリスについては6年間で8000頭以上の捕獲実績があり、繁殖地拡大を抑えられているとのことであった。 一方、アライグマとヌートリアについては、環境部が根絶に向け、NPO法人への委託による捕獲や処分、産業部では、農林水産物被害の軽減を図るべく、浜松市鳥獣被害防止計画に基づき、捕獲や防除などの駆除を行うため、アライグマには報奨金、ヌートリアには農業者への捕獲わなの貸し出しで対応している。				清水農林水産 担当部長	

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	そこで、以下について伺う。 (1) 本市における鳥獣被害防止計画はどのような計画となっているか。また、その計画でヌートリアの位置づけはどのようなになっているのか伺う。 (2) 駆除に関し、ヌートリアとアライグマでは、何が異なり、効果はどうか伺う。	
4 三ヶ日の御菌地区の浸水対策について	三ヶ日の御菌地区は、台風や集中豪雨、線状降水帯発生時などに、宇利山川増水に伴い水位が上昇すると、水門から排水されず、住宅地や三ヶ日町農協北側の市道三ヶ日東西線が浸水してしまう。 令和2年9月定例会においても質問したが、その際の答弁は「平成29年の仮設流量調整施設の設置など、当地区への流量を減少させる対策を実施している。また、静岡県では、宇利山川の河道掘削を実施し、河川水位の上昇抑制を図っている。今後の対応は、これまでの取り組みを継続すると共に、ハードとソフトを組み合わせた効果的な浸水対策を検討の上、実施していく」というものであった。 しかし、その後の令和5年6月の豪雨では床上浸水が発生し、また、令和6年8月には台風第10号の影響で、一週間に二度の床上浸水に見舞われ、女子高生が溝にはまり、流されそうになる事案もあった。地元自治会からも毎年要望書が出されている。 そこで、以下について伺う。 (1) 令和6年3月に改正された「浜松市総合雨水対策計画」における三ヶ日地区の対策の方針について伺う。 (2) 流域治水の観点から、あらゆる関係者との連携が重要であるとの認識であるが、三ヶ日地区における関係者との協働状況について伺う。 (3) 特に被害が頻発している御菌地区における、これまでの対策状況と今後の対策について伺う。	平井土木部長
5 三ヶ日町護国神社について	三ヶ日地区内、三ヶ日西小学校の北側に、三ヶ日町護国神社が鎮座している。この護国神社は昭和27年、三ヶ日町殉国者顕彰会が結成され、その後、遺族会と友晴会が協力し、町民挙げての奮闘により、昭和29年に竣工された。 この護国神社が建つ場所は、国指定重要文化財・浜名総社神明宮本殿、市指定有形民俗文化財初生衣神社織殿、国指定重要文化財の仏像、静岡県指定名勝庭園を有する摩訶耶寺や歴史街道・姫街道の三ヶ日宿などがあり、さらに三ヶ日みかん三大恩人を顕彰する柑橘頌徳碑も近くにあることから、三ヶ日の歴史と文化の集積地といっても過言ではない。また、三ヶ日町護国神社は、本	

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	市の歴史的風致維持向上計画において、これらの神社等の文化財を構成要素とする「奥浜名湖の神社と祭礼にみる歴史的風致」及び「三ヶ日みかんの栽培にみる歴史的風致」の設定エリア内に位置している。 一方、三ヶ日町護国神社は建築から 70 年が経過して建物の老朽化が進んでおり、大規模な保存修理または新築移転を検討する時期を迎えている。これまで三ヶ日町護国神社を維持管理してきた遺族会も、高齢化により日常的な管理が難しくなりつつある。 三ヶ日地区においても人口減少や価値観の変化の影響による地域コミュニティの希薄化、伝統的な活動の担い手不足など、貴重な歴史文化遺産が、その価値や魅力に気づかないまま失われていくことが危惧される。 また、この護国神社を含めた地区は三ヶ日地区の歴史観光の目玉となりうる地域であり、埋もれさせるわけにはいかない。 そこで、以下について伺う。 (1) 遺族会の高齢化等の状況を踏まえ、今後の遺族会への支援について、本市の考えを伺う。 (2) 三ヶ日地区の歴史文化遺産である三ヶ日町護国神社の保存継承及び歴史観光の振興・地域活性化に向けて、護国神社の建物自体を浜松地域遺産制度における認定文化財として推薦できるか伺う。	小松健康福祉 部長 嶋野文化振興 担当部長
6 三ヶ日地区、小・中学校の教育環境の整備について	現在、三ヶ日地区の小・中学校は三ヶ日中学校、三ヶ日西小学校、三ヶ日東小学校、平山小学校、尾奈小学校の 5 校であり、昭和 30 年代から 40 年代に建築されている建物が全体の約 4 割を占め、耐震補強はなされているものの、老朽化が進んでいる。 特に、三ヶ日西小学校は最も建築された時期が早いことに加え、校舎北側の崖地により、敷地の一部が土砂災害警戒区域に指定されていることから、災害の危険性も心配される。 三ヶ日地区の児童・生徒数は、平成 18 年度と比較し約 6 割にまで減少し、複式学級によるクラス編成となっている学校もある状況で、人口統計からは今後も減少していくことが見込まれるが、現在の校舎等の大規模改修や改築だけでは適正な教育環境が確保できない状況となっている。 そこで、以下について伺う。 (1) 学校規模などの状況による教育環境の維持・向上に向けた、現状の取り組みについて伺う。 (2) 三ヶ日地区の自治会、各小・中学校の P T A から提出された、教育環境再整備に関する要望に対する考えを伺う。	宮崎教育長 〃

(4 枚中 4 枚目)

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	(3) 今後の学校施設の施設整備に関する方針について伺う。	奥家学校教育 部長